

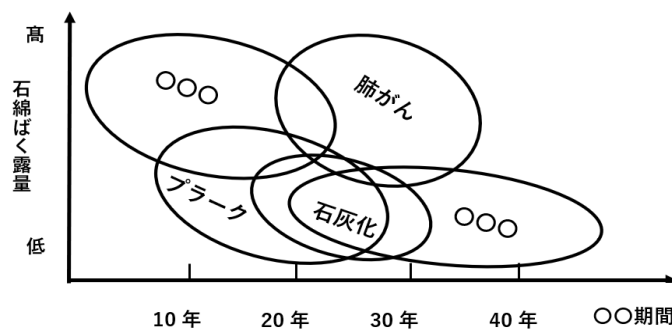
建築物石綿含有建材調査者講習修了試験 日本ボイラ協会

【模擬試験問題】

- 1 選択肢①、②、③、④は、石綿についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 石綿の6種類のうち、蛇紋石族はクリソタイルの1種類、角閃石族がアモサイトなど5種類ある。
- ② 例えば石綿含有のセメントのように塊状のものは、粉碎すると繊維状のクリソタイルが発生しその重量比が0.1%を超えるものであっても、石綿としての規制は受けない。
- ③ 石綿の分析のための試料の用に供される石綿、石綿の使用状況の調査に関する知識または技能の習得のための教育の用に供される石綿、これらの原料又は材料として使用される石綿若しくは石綿をその重量の0.1%を超えて含有する製剤その他の物は、製造の許可を受けるべき有害物である。
- ④ 今まで工業的に使用された石綿の約9割以上が蛇紋石族のクリソタイルである。

- 2 下の図は石綿関連疾患の関係を示しており、いくつかの文字を伏せている。
この図を参考に、①、②、③、④の記述のうち不適切なものを一つ選びなさい。



- ① 石綿関連疾患の中で、中皮腫は最も潜伏期間が長い。
 - ② 石綿関連疾患の中で、肺がんは比較的ばく露量の高い者が発症している。
 - ③ 中皮腫が発症する具体的なばく露量は分かっていない。
 - ④ 石綿関連疾患の中で、石綿肺は比較的ばく露量の低い者が発症している。
- 3 選択肢①、②、③、④は石綿を利用した製品の記述である。
これらのうち、不適切なものを一つ選びなさい。
- ① 石綿含有吹付け材について、吸音・結露防止用の吹付け石綿は、セメントと石綿で構成されており、石綿含有率が約70重量%である。
 - ② 石綿含有吹付け材について、鉄骨耐火被覆用の吹付け石綿は、石綿含有率が約60重量%である。
 - ③ 石綿含有スレート波板には主にクロシドライトが使用された。
 - ④ 石綿含有成形板のうち、耐火被覆板の石綿含有率（重量%）は特に大きい。

4 選択肢①、②、③、④は建築物内の石綿繊維数濃度についての記述である。
これらのうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 空気中の石綿繊維数濃度の計測方法には、位相差顕微鏡を使用する方法と電子顕微鏡を使用する方法がある。
- ② 空気中を浮遊する石綿繊維の濃度は f / mL 又は f / L で表され、単位体積あたりの空気中に漂う石綿繊維の総重量を示す。
- ③ 採取した試料をそのまま位相差顕微鏡で計数した場合は、総繊維数濃度となる。
- ④ 採取した試料を位相差顕微鏡でそのまま計数した場合は、石綿及び石綿以外の無機繊維、有機繊維が含まれる。

5 選択肢①、②、③、④は、石綿関連法令についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 大気汚染防止法の特定粉じんとは、石綿のみである。
- ② 大気汚染防止法令における特定粉じん排出等作業の実施の届出義務者は、元請業者ではなく工事の発注者である。
- ③ 大気汚染防止法令では、いわゆるレベル1、2に該当する石綿含有建材だけを規制の対象にし、石綿成形板等レベル3のものは適用対象ではない。
- ④ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）では、解体等で発生する石綿を含む廃棄物について、レベル1、レベル2の建材に係るものは「廃石綿等（特別管理産業廃棄物）」に、レベル3の建材に係るものは「石綿含有産業廃棄物」に分類され、それぞれの取扱いは異なる。

6 選択肢①、②、③、④は、石綿含有建材調査についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 事前調査の「目的」は、労働者保護や周囲の飛散防止である。
- ② 事前調査の「成果物」は、石綿含有建材の有無に関する調査結果報告書とその結果を踏まえた解体又は改修工事の工法等に関する指示書である。
- ③ 設計図書や管理者からの情報、目視調査、採取した試料の分析結果からの総合的な判断により、精度の高い石綿調査の結果を得る。
- ④ 実際の目視調査から分析による判断が必要な個所を抽出した上で、的確に使用されている材料を代表する分析試料を採取する。

- 7 選択肢①、②、③、④は、石綿含有建材調査者の役割についての記述である。
これらのうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 石綿含有建材調査は、建築物を解体・改修する工事を行う前に、事前に建築物を構成している材料に石綿が0.1重量%を超えているか否かを調査し、依頼者に対して、正確な報告書を提出する役割がある。
- ② 書面調査及び目視調査で、該当材料に石綿の含有が不明な場合、石綿が0.1重量%を超えて含有していないと“みなす”ことができる。
- ③ 事前調査の基本は「現場」「現物」「現実」の三現主義の徹底、目視調査せず書面調査の判定で、調査を確定終了してはいけないことにある。
- ④ みなし含有判定と分析による含有・無含有判定は、判定結果の持つ意味合いが異なるため明確に区別する。

- 8 選択肢①、②、③、④は、石綿含有建材調査者が石綿有無の正確な報告を行うための記述である。これらのうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 建築物解体等における石綿規制についての知識
- ② 石綿のリサイクル処理技術の知識
- ③ 建築物などに使用されている建材（石綿含有も含む）に関する知識
- ④ 各石綿分析方法の長所、短所に関する基礎知識

- 9 選択肢①、②、③、④は、建築基準法の防火規制についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 「延焼のおそれのある部分」とは、建築物の外壁部分に隣接する建物等で発生した火災の延焼を受けたり、及ぼしたりするおそれのある範囲を指す。
- ② 建築基準法では、国民の生命、健康および財産の保護を図るため、建築物の防火規制を定めている。
- ③ 建築基準法における建材の耐火・防火性能は、設計を行う上での推奨値である。
- ④ 当時の防火規制によって耐火構造が要求されていたかどうか確認することにより、効率的な調査を行うことができる。

10 選択肢①、②、③、④は、耐火構造などの規制についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 倉庫や自動車修理工場の用途に供する建築物は特殊建築物ではない。
- ② 防火地域のなどの一定規模の建築物に対する規制については、条件に該当すれば、戸建住宅にも適用される。
- ③ 3階以上に設けられた劇場、映画館、演芸場であって、客席の床面積が200㎡以上のものは、耐火建築物としなければならない。
- ④ 床面積の合計が2,000㎡以上の学校は、耐火建築物または準耐火建築物にしなければならない。

11 選択肢①、②、③、④は、建築物の主要構造部についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 間柱、局所的な小階段は主要構造部に含まれる。
- ② ひさし、装飾用の付け柱は主要構造部に含まれない。
- ③ 主要構造部の「構造上」とは防火上の観点を意味する。
- ④ 基礎は主要構造部に含まれない。

12 選択肢①、②、③、④は、鉄骨造の耐火性能確保についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 各階の床版をすべて耐火構造とすることを「水平区画」、配管等が床版や壁を貫通している部分のすき間を耐火材でふさぐことを「穴埋め」という。
- ② 床スラブとカーテンウォールとの間にできる隙間を吹付けロックウール等で充填することを「層間ふさぎ」という。
- ③ 鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造は、吹付け石綿や耐火被覆材で柱やはりを保護する必要がある。
- ④ 合成被覆耐火構造とは、軽量気泡コンクリートと吹付けロックウールの組み合わせなど性質の異なる複数の耐火被覆材を施し、耐火構造を形成するもののことである。

13 選択肢①、②、③、④は、防火区画についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 防火区画の上下階の床や壁を貫通するケーブルトレイやケーブル等がある場合の貫通部の処理にけい酸カルシウム板第1種を使用することが多かった。
- ② 一定面積ごとに防火区画し、水平方向へ燃え広がりを防止し、避難を円滑にしたり、救助活動におけるリスクを低減することを目的として、100～3,000㎡ごとに防火上の区画を設けることを「面積区画」という。
- ③ 「縦穴区画」とは、階段や吹き抜けなどの縦方向に抜けた部分が3層以上ある場合において、ドアなどを設けることで防火・防煙対策を行う区画のことを言う。
- ④ 同じ建築物の中に、ショッピングセンター、飲食店、映画館など用途や管理形態が異なるものが存在する場合には、防火、防煙、避難などの観点から、各施設の区画を確保しなければならない。

14 選択肢①、②、③、④は、内装制限を受ける一定の規模以上の特殊建築物についての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 不燃材料等の認定番号の表記は、2000（平成12）年の法改正前後で異なる。
- ② 用途が劇場、病院等であって一定の規模以上の建築物は、居室の壁と天井、避難のための廊下・階段の壁と天井を不燃材料とすることが義務付けられている。
- ③ 天井・壁等に不燃材料等として使用された建材には石綿が多く使用されていた。
- ④ 不燃材料等には、国土交通省告示に定められたものと、国土交通大臣の認定を受けたものがある。

15 選択肢①、②、③、④のうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 煙突を高温の排ガスから保護し排気に支障が生じないようにするため、その内部を煙突用石綿断熱材によって覆うことがあった。
- ② 冷暖房用の配管について、保温や結露防止を目的として石綿含有保温材が使用された。
- ③ 電気ケーブル等が床版や壁を貫通しその隙間を埋めるため一般にパテが使用されるが、パテには石綿は使用されていない。
- ④ ボイラー室の壁や天井には、防火・保温・吸音等を目的に吹付け石綿が使用された。

16 選択肢①、②、③、④は、石綿含有吹付け材についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① レベル1の石綿含有吹付け材の使用目的には、耐火や断熱・結露防止、吸音があり、目的によって種類を限定できることがある。
- ② 石綿含有吹付けパーライトは耐火構造認定（旧：指定）を取得した経緯がないので、耐火被覆が必要とされる部位に使用されていることはまずない。
- ③ 湿式工法による石綿含有吹付けロックウールは吸音性に優れ、その性能が求められる部位に多く使用された。
- ④ 1980(昭和55)年に、石綿含有吹付けロックウールの使用がロックウール工業会により自主規制されたが、物流等の在庫もあったことから、それ以降に施工された吹付け材についても石綿が使用されている可能性がある。

17 選択肢①、②、③、④は、石綿含有建材のレベル分類の記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 煙突に使用された石綿セメント円筒は、石綿とセメントが主な原料であり、レベル3の石綿含有建材である。
- ② 鉄骨の柱、はりなどに使用された石綿含有耐火被覆板は、レベル3の石綿含有建材である。
- ③ 石綿フェルトが代表的な建材である屋根用折板石綿断熱材は、レベル2の石綿含有建材である。
- ④ ビル外壁の耐火目地材に使用された石綿発泡体はレベル3の石綿含有建材である。

18 選択肢①、②、③、④は、石綿含有建材についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 石綿含有建材は、石綿含有率を基準にレベル1、2、3に分類されている。
- ② レベル3の石綿含有建材には、石綿含有成形板が含まれる。
- ③ レベル3の石綿含有建材においても、石綿障害予防規則（石綿則）や大気汚染防止法（大防法）、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）などの対象となる。
- ④ 「aマーク」があれば“石綿含有品”であると認められるが、「aマーク」が無ければ“石綿無含有品”とは必ずしもならない。

19 選択肢①、②、③、④は、設計図書の種類と記載されている内容についての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 特記仕様書は、工事に使用される材料についての情報が文字や表で記載されており、建材の仕様、規格などを知ることができる。
- ② 内部仕上表は、床・壁・天井等の仕上げ材の種類などが各層・部屋名ごと記載されており、建材の仕様、規格、製品名などを知ることができる。
- ③ 立面図は、床の高さ、天井高、軒の出寸法などが記載されており、最上階スラブ下や鉄骨造のはり・柱に使用される耐火被覆材などを知ることができる。
- ④ 天井伏図は、天井の見上げた状態を図面にしたもので、仕上げ材の建材名や点検口の位置などを知ることができる。

20 選択肢①、②、③、④は、調査に当たる際の建築確認図などの設計図書を建築物所有者から借用する場合の取り扱いについての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 書面調査に必要な設計図書を建築物所有者が所有していない場合、当該建築物の確認を行った自治体は、石綿含有建材調査者からの求めに応じて設計図書の複製を提供する義務がある。
- ② 借用した建築図面を説明した目的以外のために閲覧・複製してはいけない。
- ③ 借用した建築図面は複製であっても、使用後に返却しなければならない。
- ④ 設計図書の借用時には、図面等を特定した借用書を作成し、返却時に受領確認を得ておくことにより、トラブルを未然に防ぐことができる。

21 選択肢①、②、③、④は、国土交通省と経済産業省が共同で情報開示している「石綿（アスベスト）含有建材データベース（以下、この問いでは「データベース」と呼称）」についての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① データベースに登録した各建材は、2005（平成17）年に作成を開始し、「既に建材メーカーや関連団体が公表した」ものなどによるものである。
- ② 検索結果を調査結果の報告書に添付する際には、調査ごとに印刷する。
- ③ 原材料への非意図的な混入により、石綿が0.1重量%超と以下の両方の可能性のあるものも、現在は登録の対象となっている。
- ④ データベースは石綿含有建材であることを示すものであり、「石綿なし」の根拠とはならない。

22 選択肢①、②、③、④は、目視調査の留意点についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 2006（平成18）年9月1日の石綿等全面禁止以降に着工したことが明らかな建築物についても、原則として現地調査を行う必要がある。
- ② 解体工事のための事前調査では、解体を行う全ての建材が対象であり、内装の内側や下地等、外観からでは直接確認できない部分についても調査が必要である。
- ③ 石綿含有建材調査者は、基本的に書面調査を行った後に現地に赴く。
- ④ 事前調査では、取外しや部分的な試料採取後の補修等の処理（耐火認定や補修材料および美観等）について事前に打合せが必要となる。

23 選択肢①、②、③、④は、目視調査の留意点についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 呼吸用保護具に損傷はないか、採取する試料数が多く用品に不足が生じないかなど、調査の段取り、手順を確認しながら装備や用品を準備することが望ましい。
- ② 事前調査結果報告書を作成した場合、郵送などで提出するだけでなく、調査依頼者に調査の内容を分かりやすく説明することが望ましい。
- ③ 試料採取時の呼吸用保護具は国家検定合格品のDS-1またはDL-1の使い捨て式防じんマスクを使用することが望ましい。
- ④ 調査時の服装のポイントは、調査作業中であることを第三者に伝えるという点と、粉じんばく露からの自己防衛という点の2点である。

24 選択肢①、②、③、④は、目視調査における建築物外観の観察についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 建築物の定礎には、一般的に工事契約を締結した年月が刻印されており、石綿含有建材の調査に有用ではない。
- ② 現地調査の際、まず建築物の外観をじっくり観察することにより、おおよその作業時間や当日の作業の進行を予測できるばかりではなく、事前の計画段階では把握できていなかった、新たな調査ポイントや確認しておきたい事柄などが見えてくる場合がある。
- ③ 隣接建築物が密集している場合は、街区1ブロックの外周を一周して観察する。離れれば離れるほど建築物の全体、例えば搭屋や煙突の位置などを確認できる場合がある。
- ④ 石綿含有建材は、結露防止や断熱を目的として北面の妻側の壁のみに使用されたケースがある。目視調査では、方位の確認が重要である。

25 選択肢①、②、③、④は、目視調査の留意点についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 階段の位置と水回り（洗面所・トイレなど）、道路との位置関係や方位など、建築物の間取りや配置はできるだけ早い段階で把握することが望ましい。
- ② 調査対象に即した最適な動線計画は、結果的に労力と時間の節約になることから、調査の動線について立会い者と事前に協議しておく必要がある。
- ③ 案内人などが粉じんばく露の防護具を装着していない状況下などでは、採取作業時は、退室を願うなど第三者ばく露を防ぐための安全策を講じる。
- ④ 共同住宅のように同一パターンの部屋が続くような場合は、任意の1フロアだけを調査対象とすることが認められている。

26 選択肢①、②、③、④は、調査に際して実施する関係者へのヒアリングについての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① ヒアリングの対象者として、依頼者である建築物の所有者のほか、建築物の管理者、解体・改修工事の施工者、調査対象の建築物に長く滞在する人や利用する人、調査対象の建築物を維持管理する人などが考えられる。
- ② ヒアリングのタイミングとして、調査日前・調査日当日・調査日以降が考えられる。
- ③ ヒアリングにおいて行き違いが生じないようにするため、可能な限り専門用語を使うよう配慮することが必要である。
- ④ 調査に必要な建築物の建築時期、建築物の改修履歴、石綿除去工事の有無などは書面調査時の情報と整合性を確認し目視調査前情報収集整理表に記載しておく。

27 選択肢①、②、③、④は、写真の建材裏面から得られる情報についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。



- ① 無石綿の表示があっても、現行の規制に従えば石綿含有となる場合がある。
- ② メーカー、製造工場、ロット番号から製造時期の確認ができる場合がある。
- ③ 「不燃」と新番号で表記され、JISマークは旧マークなので、2000（平成12）年から2005（平成17）年の建材であることが確認できる。
- ④ 裏面情報から製品を特定できて、メーカーから石綿無含有の証明書が入手できれば、石綿なしと確認できる。

28 選択肢①、②、③、④は、試料採取についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 吹付け石綿などからの飛散が目視で確認できるような場合、歩行による飛散を防止する観点から、立入領域に対してHEPAフィルター付き真空掃除機による事前清掃を行う。
- ② 試料採取の方法として、やむを得ない場合以外は飛散防止措置が講じられていない電動工具を使用しない。
- ③ 試料採取後は使用した工具に付着している粉じんをウェットティッシュなどで拭きとる。
- ④ 試料採取時は建物内に粉じんが発散するので、換気扇による換気に努める。

29 選択肢①、②、③、④は、石綿含有建材調査者の労働安全衛生上の留意点についての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 夏季における高温のボイラー室などでは熱中症予防のため作業着は半袖がよい。
- ② 石綿含有建材調査者と石綿含有建材調査者を雇用する事業者は、労働安全衛生法（安衛法）、石綿障害予防規則（石綿則）などの関係法令を遵守しなければならない。
- ③ 作業着は使い捨て作業着、または粉じんの付着しにくい素材の作業着などを使用し、採取後にはHEPAフィルター付き真空掃除機などで十分に付着した粉じんを吸い取ってから採取場所を離れる。
- ④ 配管類の上に乗れば採取作業ができる、といった場所は試料採取の適地とはいえない。

30 選択肢①、②、③、④は、改修工事や増築工事を見落とさない調査についての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 増築や改修を行った場所を見落とさないためには、建築物の所有者や利用者などへのヒアリングが重要である。
- ② 空調機械室や天井点検口から天井裏のスペースを見たとき、放置されているダクトや配管があれば、過去に改修工事が行われた証拠であり、仕上げ工事で天井板などの改修が行われたと考えられる。
- ③ 工場などの建築物で、柱・はりが端部2スパンだけ規則性が異なっていることもあるが、端部は比較的足場なども架けやすいので、ここから試料を採取し、建物を代表するサンプルとする。
- ④ 点検口から天井内を覗くと、天井ボードを取り付ける野縁や野縁受けを見ることができる。これらが不連続になっていることやせっこうボードの色が異なることなどから、天井面の改修履歴を見つけることができる。

31 選択肢①、②、③、④は、建材別の試料採取の際の留意点についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 建築物の小型ボイラー等の配管に使用される保温材はバルブ、フランジ、エルボ部分に使用されている場合が多いが、直管部でも可能性がある。
- ② 吹付け材は、改修工事で石綿無含有の吹付けロックウールを表層に施工したり、吹付け材表面の毛羽立ちを抑えるために、セメントスラリーを表層に散布する場合があることから、該当吹付け材施工表層から下地まで必ず貫通しての試料の採取を行う。
- ③ 過去に重量の0.1%を超えて石綿を使用していた建築用仕上塗材については、日本建築仕上材工業会が公表している「アスベスト含有仕上塗材・下地調整塗材に関するアンケート調査結果」により、石綿含有仕上塗材の種類、販売期間、石綿含有量が確認できる。
- ④ 成形板は、使用目的からほぼ施工部位が特定できるので、各フロア又は設備機器1箇所から100cm²程度の試料を採取し、密閉して収納する。

32 選択肢①、②、③、④は、レベル3の石綿含有建材の試料採取についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 天井材の試料採取を行う場合、天井点検口のふた部分の天井材から採取してはいけない。
- ② 天井や壁が二重に施工されている場合、必ずしも古い材料が石綿含有で、新しい材料が石綿無含有とは限らないため、新旧両方の建材を試料採取する必要がある。
- ③ 試料採取の最中に石綿含有建材から石綿繊維が飛散しないようにするため、噴霧器などで採取箇所を事前に十分に湿らせる必要がある。
- ④ 試料採取のためやむを得ずホールソーなどで開削する場合は、濡らしたペーパータオルで採取箇所を十分に湿らせてから切断する。

33 選択肢①、②、③、④は、目視調査の記録方法についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① これから入室する部屋名が廊下側のドアに記されている場合がある。対象部屋に入る前のメモとして、また習慣として撮影しておきたい。
- ② 調査対象物の近接撮影を行う場合は、なるべくアップにして真正面から撮影する。
- ③ 写真の構図（フレーミング）は全写真ともできるだけ横の構図とする。
- ④ 撮影技術の習得はさほど難しくない。「人に分かってもらいたい、伝えたい」という思いがあれば誰でも簡単にマスターできる。

34 選択肢①、②、③、④は、吹付け石綿の劣化度判定についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 全体の状態はよいが、漏水による局所的な劣化が見られるので「やや劣化」とした。
- ② 全体の状態はよいが、人為的な多数の損傷が2面（2スパン）以上にわたってあるため「やや劣化」とした。
- ③ 人為的な傷やへこみが局所的には少数あるが、毛羽立ちなどの表面劣化が全体としては見られないので「やや劣化」とした。
- ④ 複数面（スパン）にわたり多数の損傷の痕がある、深層までの傷がある、繊維の垂れ下がりが見える、擦過傷の面積が大きいなどのため「劣化」とした。

35 選択肢①、②、③、④は、偏光顕微鏡を用いた定性分析法についての記述である。
これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 試料を受け取ったら肉眼で試料の全体をよく観察し、色や材質を記録する。
- ② 調整した試料又は未処理の試料を肉眼と実体顕微鏡で詳細に観察し、試料の種類や前処理の必要性の有無を確認する。
- ③ 実体顕微鏡により石綿の可能性のある繊維が検出され、これらの繊維が偏光顕微鏡による観察で石綿と判定されると、石綿ありとなる。
- ④ 偏光顕微鏡で観察すると、石綿繊維は蛇紋石族（クリソタイル）の特徴を示すものと、角閃石族（アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クロシドライト、トレモライト）の特徴を示すものに分類されるため、分析で用いる標準試料は2種類である。

36 選択肢①、②、③、④は分析機関の選定についての記述である。これらのうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 2023(令和5)年10月1日以降に解体等の作業が行われる事前調査における石綿の分析は分析調査者又は同等の知識等を持った分析者が行うことが義務付けられる。分析機関の選定にあたってはこれらの者が在籍していることを確認する。
- ② 精度管理プログラムを認識している分析機関を選定することが望ましい。
- ③ 分析機関の選定にあたっては、分析機関に対して、石綿分析技術者の教育計画や教育記録を提出させる。
- ④ 特に採取した試料が多い場合は、分析料金が安い機関を優先して先行する。

37 選択肢①、②、③、④は、分析結果のチェックについての記述である。
これらのうち、不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 分析結果報告書を受領した際、アスベスト分析マニュアル「定性分析方法2（X線回折分析法・位相差分散顕微鏡法）」のバーミキュライト吹付け材は塩化カリウム処理の方法を行っていることを確認し、良しとした。
- ② 石綿含有建材調査者は得られた分析結果が妥当であるかどうかの最終判断をする必要があり、そのために石綿分析法や分析結果報告書のチェックの仕方など経験を積む必要がある。
- ③ 再調査が必要になった場合、最終報告書の納期までの限られた時間内に、発注者に適切に理由を説明し、信頼関係を維持しながら業務を完了しなければならない。そのためにも石綿含有建材調査者自身による早めの分析結果のチェック作業は重要である。
- ④ 石綿含有建材調査者は分析の専門ではないので、分析機関の品質管理やその分析結果報告書について判断し、評価することは避ける。

38 選択肢①、②、③、④は、解体・改修における調査報告書の対象物件概要についての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 竣工年：着工年・改修年などもここに記載する。
- ② 建築物所在地：地番・家屋番号ではなく住居表示を記載する。
- ③ 規模：〇〇㎡、〇階、地下1階はB1F、塔屋2階はPH2Fとする。
- ④ 特記事項：自らの責ではない何らかの理由で調査ができなかった箇所があった場合、その理由は記載せず、その箇所は未調査であることだけ分かるように報告書を作成する。

39 選択肢①、②、③、④は、解体・改修における調査詳細報告書についての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 竣工年：竣工年の竣工月まで記載する。着工年月、改修年月も記載する。
- ② 所在地：竣工当時の番地と現在の番地を記載するように努める。
- ③ 建物用途：事務所、工場/倉庫、娯楽施設、学校などから選択する。複数の用途に使用されている場合は、代表的なものを一つ選択する。
- ④ 延床面積：図面に記されているとおりに記載する。小数点2桁まで図面に記されていれば、そのとおりに記載する。

40 選択肢①、②、③、④は、解体・改修における分析試料一覧表（分析依頼表）についての記述である。これらのうち不適切なものを一つ選びなさい。

- ① 採取者資格は、採取した者の保有資格名と経験年数を記載する。採取者の姓名は個人情報保護のため記載しない。
- ② 採取場所は3つの部屋にまたがることもありうる。
- ③ 採取物建材名は、竣工図（特記仕様書、仕上表）に書かれている建材名（商品名）に合わせる。
- ④ 竣工年月においては、改修工事が行われていれば改修年月を記載する。

試験問題は以上です。